

巻頭言

年頭所感

一般社団法人 土地改良建設協会 会長 宮本 洋一



あけましておめでとうございます。新年にあたり、会員の皆様の今年の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

昨年夏の参議院議員選挙におきまして、本協会が推薦した宮崎雅夫さんが見事に当選されました。前回の参議院選挙で当選された進藤金日子議員との、土地改良代表議員の二人体制が確立したことは、誠に心強く、喜ばしい限りです。進藤、宮崎両議員ともに、「農山漁村は日本の命綱」、「農山漁村は未来への礎」を旗印に、「強い農林水産業と美しく活力ある農山漁村を創造する」とともに、「我が国の自然豊かな美しい農山漁村を未来の子供たちに引継いでいく」として精力的に活動されており、今後とも、我が国の農業と農村地域の発展のため、益々のご活躍を祈念する次第です。

「未来の子供たちに引継いでいく」ということについては、先日、ある機関誌の寄稿文により、福岡県筑紫郡に日本書紀に登場する「裂田の溝（サクタのウナデ）」という、我が国最古とも言われる農業用水路を知る機会を得ました。この寄稿文によれば、日本書紀に、「神宮皇后は、みずから新羅を討とうと欲し、神祇に祈り祭って神に貢ぐための新田を造成し川の水を引いて田を潤そうと思ひ、溝（ウナデ・水路）を掘つたが、途中に大岩が塞がって溝を穿つことが出来なくなつた。そこで、皇后は、武内宿禰（タケウチノスネ）を呼び、剣と鏡を捧げ神祇に祈願させたところ、たちまち雷、稲妻が鳴り響き、大岩が砕かれ、水が通るようになった。それ故、人々はこの溝を『裂田の溝』と呼ぶようになった。」と記載されているとのことです。

この溝の原形は、四世紀中頃に造成されたと推定されており、造

成から一七〇〇年近く経った現在でも十分に機能を発揮し活用されており、周辺の圃場整備された水田とともに美しい農村景観を呈していることは、本当に驚きであり、先祖から子孫へ連綿と受け継がれてきた歴史に感動すら覚えました。改めて、農地や農業水利施設等の農業基盤、そして、美しい農村景観を将来の世代に遺していくことの重要性を認識するとともに、現代に生きる私たちに託された重要な責務であることを痛感いたしました。

土地改良事業は、これまで灌漑施設や圃場などの整備を通じて、農業生産性の向上を図るとともに、農村地域の環境保全・創出に寄与するなど、農業と農村地域を下支えし、国民の安心・安全な生活を支える重要な役割を担ってまいりました。

当協会といたしましては、土地改良事業の円滑な推進はもとより、事業を継承していく技術者等将来の担い手の確保にも積極的に取り組んでおります。一昨年から多くの学生に土地改良事業へより興味を持ってもらうために、国営事業地区の課題等についての卒業・修士論文を作成する学生を対象に、そのフィールド調査の費用の一部を支援するという事業を開始しました。昨年も多数の応募をいただいたところであり、今後も引き続き実施してまいります。

また、昨年六月に成立した「新・担い手三法」の趣旨等を踏まえ、本年も農林水産本省や地方農政局との意見交換会を開催し、働き方改革、生産性向上及び災害時の緊急対応などについて活発な議論を行い、会員各社が抱える諸課題に的確に対応できるよう活動を行ってまいりますので、今後とも会員の皆さまの一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。